

# おぼろげな時代の会ニュース

発行  
平塚らいてうの会  
〒112-0002  
東京都文京区  
小石川  
5-10-20-5F  
TEL・FAX  
03-3818-8626

## 『平塚らいてうと「15年戦争」』

～奥村直史さんを囲んで～

7月26日、紀要第6号に掲載のらいてうの令孫奥村直史さんの特別寄稿「平塚らいてうと「15年戦争」・・・」について語り合う会が持たれました。直史さんご夫妻を囲んで米田会長はじめ会員が集い有意義な意見交換がされました。

2013年1月27日、NHKテレビで「日本人は何を考えてきたのか」昭和編「女たちは解放をめざす」平塚らいてうと市川房枝」が放映されましたが、らいてうの昭和期の消費組合運動や、日米開戦直後の「疎開」などには触れられず、戦時下のらいてう理解については時間不足の感がありました。そこに踏み込んで奥村論文は書かれたのです。また、論文は、戦時下のらいてうにとどまらず、生涯を通してのらいてうの思想形成の根幹を一貫して追求するなかで、戦時下のらいてうの真実に迫ろうという意欲的な姿勢に貫かれた力作でした。

1940年に向けてのらいてうの姿勢の変化、戦時「非常時局」におけるらいてうの動揺の跡を丁寧に跡付け、「早期疎開」を迷いの後のらいてうの決断とし、筆を折ることはそれまで築いた生活の根底をなげうつまったく非連続的な変身であ

り、極めて主体的な決定であるとして従来より一歩踏み込んだ評価がなされたことには、参加者から共感の声がよせられました。

また、らいてうの禅について、「らいてうの言う『神』は、特定の宗派に属するものではない。むしろらいてうは、極めて原始的な自然や祖霊を敬い、慕い、畏敬を払い、祈りを捧げるアニミズムの心性を大事にして生きてきた人といえよう。」という指摘がなされている点については、土俗的なアニミズムにとどまらない当時西欧にも流布した「靈知学」の影響をも含めて考えるべきという意見が出され、らいてうのアイデンティティの軌跡を「個としての自己」「母性としての自己」「階級としての自己」として整理されている中では、らいてうの母性主義については単に戦時の産めよ増やせよにつながるものとしての通説を乗り越える積極的な母性の理解を追求する必要性を提起する意見も出されました。

そのほかにも多くの質問や意見がだされ、この論文の提起をさらに検討し研究を深める必要が痛感されました。らいてうの思想や行動のある局面だけを取り出してバランスを欠く批評をするのではなく全体の連関の中で見ていくこと、らいてうの思想をらいてう個人に特殊なもの、日本に特殊なものともみるのではなく、国際的視野に立ちその

時代性の中でみていくことが必要。紀要6号を多くのみなさんに読んでいただくことを願い、奥村直史さんの真摯な研究への敬意と感謝を共有して会を終わりました。(三留 弥生)

## 「小林登美枝没後10年のつどい」

うけつぐ想いを今 —— 長野市で

信濃毎日新聞にコラム「女の机」を42年間も連載、「信州にらいてうの家を」と呼びかけた前会長小林登美枝さんの没後10周年に、ゆかりの信濃毎日新聞本社（長野市）を会場に記念の「つどい」を開催します。彼女が生涯敬愛した平塚らいてうの遺した想いを現代にどううけつぐか、語り合いたいと思います。小林さんを知る方も、「らいてうさんってだあれ？」という若い方も、地域・世代を越えて話し合いができれば、お二人とも喜んでくださるでしょう。

日時 2014年2月1日（土）午後1時半～

ところ 信濃毎日新聞本社講堂（長野市）

内容 ☆お話 奥村直史（らいてう令孫）他

☆参加者によるフリートーク

☆「女の机」全スクラップ、未公開のら

いてう生原稿やメモ、「青鞥」原本（一

部）等の展示も予定。

会費 1000円（茶菓代とも）、高校生以下

500円

後援 信濃毎日新聞社

申し込み NPO平塚らいてうの会（FAXで

03-3818-8626）

らいてう講座 ②

「らいてうとベアテと憲法と」



第2回らいてう講座は7月14日「らいてうとベアテと憲法と」と題して開かれた。講師は米田佐代子館長。22歳のベアテ・シロタが女性解放への渾身の想いをこめて作った日本国憲法の人権条項。14条と24条は9条を支えている。この憲法を60歳のらいてうは喜びに

震えて読んだ。その感激を昭和23年10月「わたくしの夢は実現したか」と題して『女性改造』10月号に発表している。ここでは9条の戦争放棄をことのほか喜び、「14条24条では、旧来の女性の隷属生活を、女性への差別的見方、扱い方を根底から一掃した。24条に基づいて改正された新民法は思い切った大改正で胸のすく革命である。」と喜んでいる。妻の姦通のみを姦通罪として罰した刑法は廃棄され、罰されることもなくなった。親権も父母共同して行うことに変えられた。家制度も廃止された。等々改正された民法・労基法等に喜びを寄せている。しかしこの新憲法の中に母性と子どもの権利が全然忘れられている。母性と子どもに関する権利を規定しない限り、女性の生活の平和と安全は確保されない、と訴えている。この

女性と子どもの権利についてはベアテ原案では丁寧書き込まれていた。しかし、憲法の中にあまり細かい規定は盛り込まなくてよい、民法で規定すればよいと男性弁護士に退けられてしまった。ベアテは、「それでは日本の男たちはぜったいに民法に書くことを認めないだろう」と泣いて悔しがったそうであるが、その通り！目に見えない形で男性支配は温存されてきている。そして2012年自民党は改憲案を作った。9条を変えるだけでなく、13条24条も変える案である。憲法についてどう考えるか、私たちがよく考えていかなければならない。

(杉山 洋子)

らいてう講座—紫式部からのメッセージ

源氏物語影のヒロインは？

—「をこの娘育て」—

久しぶりの宮島満里子さんの「源氏物語」講座、30人近くの参加でにぎわいました。午前中、和室で「お茶の席」が催されました。宮島先生のお弟子さんが作法に則り、ふるまわれましたが、米田館長はじめ、上田・真田のみなさん方が、素敵な和服にドレスアップ！でお出ましに、目を奪われてしまいました。

もちろん講師の宮島先生はいつもながら貫禄、小柄なお体からやさしいオーラで周りを包み、快活に講義をすすめられました。

今回のテーマは「紫式部からのメッセージⅠ」



娘を育てる父・もう一人のヒロイン「源氏物語」の中の「源氏」「明石入道」と「弘徽殿女御」をとりあげました。

まず源氏の「若紫」育て・幼い若紫を自分好みに育て上げ、妻にしてしまう。明石入道はわが娘をいかに源氏の目にふれさせようかと心を砕く。

この時代の男たちが、女性についての考えは、つぎの言葉がすべてを物語っています

「女はただやはらかに・・・ものづつみし、みんなのところに従はんむあはれにて、わが心のままにとり直してみんに、懐かしくおぼゆべき。はかなびたるこそ女はらうたけれ。すべて女は、やはらかに心うつくしきなむよき」

この時代、上流貴族の親は、わが娘をいかに宮廷に送るかに懸命でした。そのために、女性たちはおさない頃から、教養をつみました。その内容にびっくり！古今和歌集の暗記、自分も和歌を詠む。書道、お琴はもとより、囲碁…これはじっくり考える力をつけるためとのこと。「うーん」と考えさせられました。

宮島先生は「源氏は男性の目で書いているけれど、でも、紫式部の視点は女性の目です。千年も前にこのような女性がいたということは素晴らしい

(3面につづく)

### 森の講座Ⅰ 森とともに生きる

― 笹刈り・手作り昼食・溪流あそび ―

今年度は「笹刈り」を2回計画し、その第1回目を7月6日に行いました。天候の心配もありましたが、ちょうどよい曇り空。作業には幸運です。まだ笹が伸びないうちに先手必勝（を願って）。別所温泉から参加の初めての方も含め34名の参加（笹刈りは24名）で実施しました。東京からは9名の参加です。

まだ笹が大きく繁る前とはいえ、苗木は埋もれ、全体の広さにも皆さんの気持ちもやや笹に押され気味。しかし、予定の半分の時間が過ぎ東京隊も到着、埋もれていた木々がすつくと姿を見せ始めた頃からほとんど作業が進みました。終了予定時刻にはすっかり笹もきれいになくなっていました。人の力はすごい。苗木にくいこんでいた目印のカラーペーパーテープも付け直し、優しい森になりました。



笹刈り終了後は地元のみなさん手作りの昼食（梅ご飯、山菜・野菜のてんぷら、おやき、漬け物）そしていわな、やまめ、にじますの塩焼きをいただきました。とりたて、焼きたてはこの時ならではの極上品です。おなかも満足の後は、自然

インストラクターの西牧さんの案内で近くの溪流沿いの道へ。溪流ならではの珍しい木々の名前を覚えたり、木の幹に残っている熊の爪痕を観察したりしました。澄んだ水音、鳥の声、木々をわたる風、冷たい水に手を浸す等、五感で森を感じました。砂防ダムのおとも見学。生活に欠かせない水を生む溪流の大切さを学習しました。さまざまなきり物との関連連鎖の中で私たち人間も生かされていると改めて感じた充実のひとときでした。

（若尾 伸子）

### 葉草の森で子どもまつり 「うってまのしかつたよ！」

8月10日（土）、らいてうの家のすぐ下にある、葉草の森りんどで子ども祭りをしました。パネルシアターで「ピクニック」「かえるの合唱」「ドレミの歌」など、大型紙芝居で「地蔵峠の大蛇」と「千古の滝」を見たあとには、子ども

も大人も全員でバルーンアートでのアンパンマンの顔づくりや歌あそびをやり、ママやおばあちゃんに来てくれた子どもたちは真剣に見入ったり、笑ったりと楽しそうでした。みんなを楽しませてくれたのは、地域で活動する「玉手箱の会、ミミールの会、やまがの会」のメンバーさんたちです。

あそんだ後には、地元



会員の手作りおやつ・ニラの薄焼きとポップコーンをみんなで頬張りさらに会場がにぎやかになりました。

（斉藤 慶子）

### 「若ツバメの指環」登場！



昨年の夏、シャンソン研究で有名な葦原英了さん所蔵の奥村博史作の指環のことで、らいてうの家をお訪ねくださったご遺族（娘さん）の驚見あや子さんが、今年是指環を持参され、9月中旬まで展示させていただきました。

お母様は今もこの指輪を「若ツバメの指環」と言ってお大事にしておられるそうです。繊細な爪の細工といい、大ぶりの美しい石といい、博史の傑作の一つではないかと思われまします。短い期間でしたが楽しませていただきました。奥村博史「わたくしの指環」（写真集）にはこれと同じつくりの指環の写真もありました。鷺見さんは「愛蔵家リスト」をみて「知人の名もあるので、聞いてみましょう」とおっしゃってくださいました。心から感謝いたします。

（米田佐代子）

### （2面より続く）

いことです」と結ばれました。それにして、八十八歳の宮島先生の若々しいお声と、現代に引き寄せての源氏物語の解釈に、ほんとうに参加できて、幸せな「家」当番でした。

（木村 康子）

### 「エレン・ケイとらいてう」学習会！

スウェーデンへの旅はいかが？

『青鞥』発行後、世間から「新しい女」とさわがれ、らいてうは「真の新しい女」について考えてみたいと思います。そして、『青鞥』3巻1号の付録「新しい女、その他婦人問題について」にエレン・ケイの「恋愛と結婚」を翻訳、毎月のように掲載し、エレン・ケイを知り、その思想にひかれていきました。

生命を熱愛し、恋愛を母性を、子どもを愛したエレン・ケイの故郷スウェーデンを訪ねてみませんか？

平塚らいてうの会では、2014年にスウェーデンへの旅を計画しています。それに先立ち、勉強会を行うことにしました。関心・興味のある方のご参加をお待ちしています。

第1回 エレン・ケイ著

『恋愛と結婚』について①

9月19日(木) 13時30分

東京ウイメンズプラザ

講師 折井美耶子さん、

第2回 『恋愛と結婚』②

10月31日(木) 13時30分

東京ウイメンズプラザ

講師 折井美耶子さん

第3回 『スウェーデン水辺の館への旅ーエレン

・ケイ「児童の世紀」をたずさえてー』荒井冽

著について

11月21日(木) 13時30分



エレン・ケイの像

講師 井上美穂子さん(場所未定)  
第4回 12月19日(木)予定、内容・場所は未定  
★ 申し込み 平塚らいてうの会

#### 「紀要6号」に関心高まる、ご購入を！

「平塚らいてうと「15年戦争」」では、国家総動員体制の時代に、侵略戦争に疑問を感じても、「反対」を主張することはむずかしく、情報も限られる中で、「揺れ、動いた」らいてうの心を、令孫の奥村直史氏が分析。(1面参照)

戦後らいてうは、日本女性が戦争を阻止できなかった反省から、「非武装・非交戦の平和主義」を主張。今年1月のNHK(Eテレ)「平塚らいてうと市川房枝」では紹介されなかった、新婦人協会の活動や戦後の平和運動に関する貴重な資料を、解説とともに紹介しています。ぜひご購入くださるようおすすめします。(700円)

#### お知らせ

2013年 らいてう講座

#### 「いのちの平和」ーらいてうが

#### 生活の中から紡ぎだしたもの

日時・2013年10月26日(土)

午後1時半から

会場・らいてうの家

お話し・米田佐代子

資料代・300円

・米田館長が語る「まだ知られていないらいてう」を聞きましょう。

#### 【事務局日誌】

7月2・3日 「らいてう関係資料」整理作業

7月6・7日 森のめぐみ講座1 笹刈りと溪流遊

び

7月14日 らいてう講座2 講師米田佐代子館長

「ベアテ・シロタさんの志を受けついで」(於・らいてうの家)

7月26日 奥村直史さんを囲む会「紀要6号の労

作を中心に」

7月30日 紀要6号完成

8月4日 あずまや高原自治会懇親会に出席

8月10日 子どもまつりに参加(於・葉草の森り

んどう)

8月18日 葉草観察会に出席(於・葉草の森り

んどう)

「小林登美枝さん没後10周年のつど

い」打ち合わせ会(於・らいてうの家)

ニュース10月1日号編集会議

9月6日 第1回常任理事会

9月14日 源氏物語講座 講師・宮島満里子さん

(於・らいてうの家)

9月19日 エレン・ケイ学習会第1回

9月20日 「らいてう関係資料」整理作業

9月28・29日 森のめぐみ講座2

笹刈りと秋の花観察・菅平湿原散策

#### 会費納入のお願い

今年度会費未納の方は、ご送金くださるようお願いいたします。

送付先 振替番号001150-9-553046  
NPO・平塚らいてうの会